

編集後記

今回の「矢作川研究 No. 3」は、平成9年度の当研究所調査研究報告を中心に、纏めたものです。年々、成果も充実し、かなり厚い所報となりました。お忙しい中、熱心に執筆していただいた方々には厚く御礼申し上げます。

昨年の春、矢作川では近年希にみる天然アユの遡上がありました。研究所の遡上調査が報道されると、調査場所には連日大勢の人々が見学に訪れて、魚道を遡る若アユの生命力と躍動感に魅了されていました。とりわけ、子供たちが、アユをじっと見つめる目は真剣で、なかなかその場を離れようとはしませんでした。この感動を彼らは、ずっと忘れることは無いと思います。ちなみに、大人は「今年は釣れるぞ」と喜んでいましたが、不思議なことにこの夏は大変不漁でした。

川は、人々に水だけでなく、夢や感動をも与えてくれます。この子供たちが川に興味を覚え、将来また自分の子供を連れて川を訪れるような、そんな矢作川を残していかなければならないと思います。

平成10年4月に、研究所に植物の研究者が採用され、平成11年4月からさらに魚類の研究者が増員されることとなりました。今後も研究体制を充実しながら、一層努力して参りますので、皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

最後に、本書の発行にあたり、多くの方々に、お願いを申し上げ、ご協力頂きました。心よりの感謝とともに御礼申し上げます。

1999年3月15日

矢作川研究編集委員

村山志郎・宮田昌和